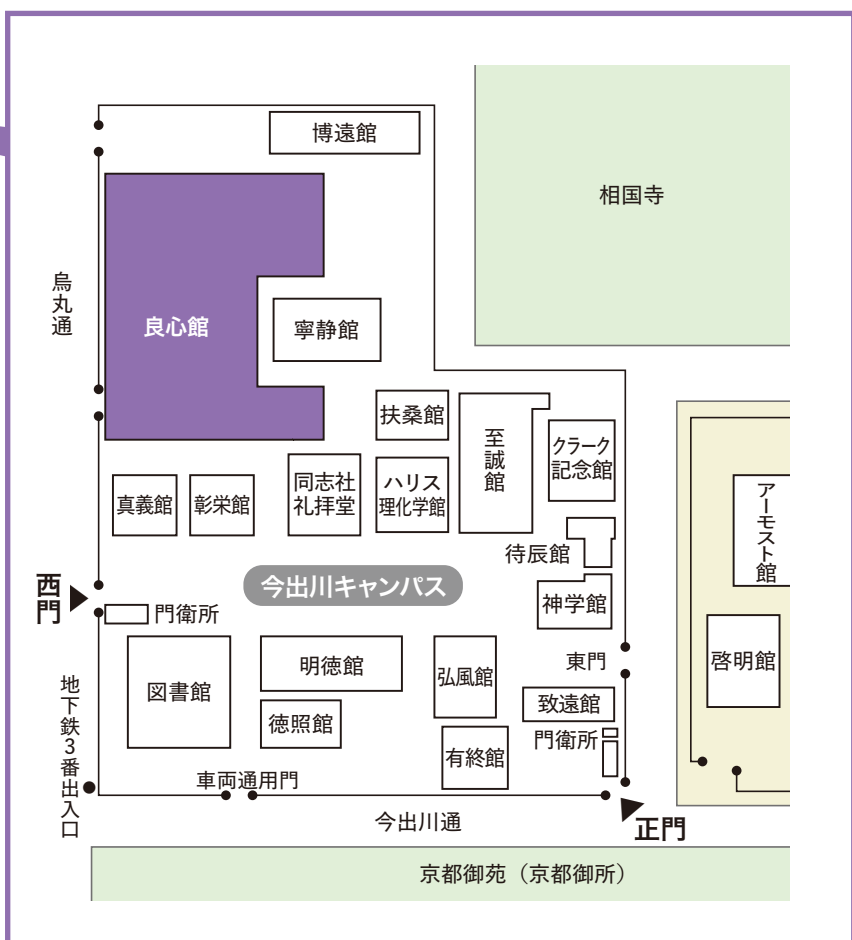


## 会場案内

講演会場は、  
今出川校地 良心館 RY305教室です。



- ・JR京都駅から地下鉄烏丸線で10分、「今出川」駅下車すぐ
- ・阪急烏丸駅から地下鉄烏丸線で6分、「今出川」駅下車すぐ
- ・京阪「出町柳」駅下車徒歩15分、または市バスで5分

会場へは公共交通機関をご利用ください。

(駐車場はありません)

# 移民・難民と地域社会はどうつながるのか

―海外と日本の実践・教育現場から問い直す―

司会  
神田 柳蘭 (同志社大学)  
Liulan WANG-KANDA

第1部 基調講演 13:40~

「タイと日本の難民支援を通して  
―地域社会への第一歩を考える―

宗田 勝也 (一般社団法人難民ナウ・代表理事、NPO 法人 PEACE・事務局長)  
Katsuya SODA

第2部 事例報告・総合討論 14:40~

「学生とムスリム女性が共にレシピを作る  
―実践系授業における学びの記録―

石井 香江 (同志社大学)  
Kae ISHII

「日本におけるイスラーム学校の現在地と展望  
―教育の担い手たちとの協働に向けて―

見原 礼子 (同志社大学)  
Reiko MIHARA

コメンテーター  
物部 ひろみ (同志社大学)  
Hiromi MONOBE

千田 悦子 (元UNHCR国際専門職職員、同志社大学嘱託講師)  
Etsuko CHIDA

2026 2.28 土 13:30~17:00  
開場 13:00

同志社大学 今出川校地 良心館 RY305教室

参加無料

会場参加 事前申込不要

Zoom参加 事前申込要 定員100名(先着順)

申込URL <https://forms.office.com/r/kWyBxr5X6B>

申込締切日 2月20日(金)



※合理的配慮が必要な方は、2/6(金)までにご希望の内容をお知らせください。ご要望内容を検討のうえ、できる限りの対応をさせていただきます。

主催・お問合せ

同志社大学  
人文科学研究所

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入  
TEL 075-251-3940  
E-mail ji-jimbn@mail.doshisha.ac.jp

共催

科学研究費助成事業・基盤研究(C)「越境者の生活実践とホスト社会との相互交渉・つながりの動態に関する動態的研究」(研究課題/領域番号:25K15599、研究代表者:神田 柳蘭) 同志社大学

後援  
同志社大学キリスト教文化センター

## 講演会の趣旨

移民・難民問題がクローズアップされている。政治的イシューとしての関心が高まるなか、私たちはこの問題にどのように向き合い、そして、どのようにつながることができるのか。

本公開講演会においては、長年、難民支援の発信と現場での実践を培ってこられた宗田勝也氏を基調講演者としてお迎えし、移民・難民と地域社会をめぐる課題に加えて、一方向にはならない関わり合いの相互性とは何かについて考えていきたい。さらに、2名の国内外での教育・研究実践の事例発表を通して、「現場に求められる移民・難民への支援とは何か」、「支援を越えた地域とのつながりは可能か」といった問いを共有し、最後に登壇者とフロアを交えた総合討論を実施する。本公開講演会を通じて、日本社会における未来のあるべき移民・難民との共創社会にむけて何が求められるのかについて、研究者、支援者、市民を交え多角的に議論する場にしたい。

## プログラム

13:00	受付開始	
13:30	開会挨拶・趣旨説明	神田 柳蘭
第1部	基調講演	
13:40～14:30	「タイと日本の難民支援を通して —地域社会への第一歩を考える—」	宗田 勝也
14:30～14:40	質疑応答	
第2部	事例報告・総合討論	
14:40～15:10	「学生とムスリム女性が共にレシピを作る —実践系授業における学びの記録—」	石井 香江
15:10～15:20	質疑応答	
15:20～15:50	「日本におけるイスラーム学校の現在地と展望 —教育の担い手たちとの協働に向けて—」	見原 礼子
15:50～16:00	質疑応答	
16:00～16:10	休憩	
16:10～17:00	総合討論	コメンテーター 物部 ひろみ・千田 悦子

# 移民・難民と地域社会は どうつながるのか

— 海外と日本の実践・教育現場から問い直す —

## 【プロフィール】

報告者

宗田 勝也

Katsuya SODA

専門／強制移動研究

所属・職名／一般社団法人難民ナウ・代表理事、NPO 法人 PEACE・事務局長

主要著作・論文／

『誰もが難民になりうる時代に—福島とつながる京都発コミュニティラジオの問いかけ』（単著、現代企画室、2013 年）

『『誰も取り残さない』社会への手がかり—コロナ禍における移民・難民のボランティア活動から』『ボランティア学研究』21, pp. 33-38（2021 年）

報告者

見原 礼子

Reiko MIHARA

専門／比較教育学、子ども社会学

所属・職名／同志社大学グローバル地域文化学部 准教授

主要著作・論文／

『イスラームの定着と葛藤（西洋における宗教と世俗の変容 2）』（共編、勁草書房、2024 年）

『日本で暮らすムスリムの子どものための教育—イスラームを学ぶ・生きる・継承する』（共編、明石書店、2025 年）

コメンテーター

千田 悦子

Etsuko CHIDA

専門／平和研究（市民運動、命の疎外化、反差別等）

所属・職名／元 UNHCR 国際専門職職員、現在同志社大学グローバル地域文化学部 嘱託講師

主要著作・論文／

『アフガニスタン祈りの大地』（単著、清流出版社、2002 年）

「日本国憲法（特に第九条）に守られて—海外現場経験からの考察」『アジェンダ』78, pp. 58-64, 2022 年）

報告者

石井 香江

Kae ISHII

専門／ドイツ社会史（労働とジェンダーの近現代）

所属・職名／同志社大学グローバル地域文化学部 教授

主要著作・論文／

『電話交換手はなぜ「女の仕事」になったのか—技術とジェンダーの日独比較社会史』（単著、ミネルヴァ書房、2018 年）

『情報・通信・メディアの歴史を考える』（共著、山川出版社、2023 年）

コメンテーター

物部 ひろみ

Hiromi MONOBE

専門／アメリカ研究（ハワイ日系史）

所属・職名／同志社大学グローバル地域文化学部 准教授

主要著作・論文／

「ハワイ日系二世と祖国見学団—世代と人種を超える日本文化の享受」吉田 亮編著『越境する「二世」—1930 年代アメリカの日系人と教育』現代史料出版, pp. 238—259（2016 年）

「太平洋戦争と覚醒する民族的誇り—宝塚歌劇団上演『その日の布哇』（1943）に描かれるハワイ日系人像」『アメリカ太平洋研究』25, pp.101—119（2025 年）

司会・企画

神田 柳蘭

Liulan WANG-KANDA

専門／移民研究（文化人類学）

所属・職名／同志社大学グローバル地域文化学部 准教授

主要著作・論文／

『越境を生きる雲南系ムスリム—北タイにおける共生とネットワーク』（王柳蘭、昭和堂、2011 年）

『ミクロヒストリーから読む越境の動態』（王柳蘭・山田孝子編、国際書院、2023 年）